

ふしみさらだボール子育て情報



「幼児とプログラミング教育」

令和元年 11 月 13 日号

板橋富士見幼稚園



この 100 年、時代は急速に変化しています。人口はますます減少し、働き手が高齢化していく中で、世界的に ITC (Information and Communication Technology) のネットワークが我々の生活そのものを変え始めています。こうした中で、今私たちが考えなければいけないことは何か、そして我が子の 20 年後をどう保証していくかが問われています。

アメリカの実証実験で、幼児期に早期教育を受けた子どもより、多様な遊び経験の中で非認知能力を十分に伸ばし続けた子どもは、知的に高い水準に到達することが証明されました。今まで、早期教育とされる【教える学び】もある意味で可能性があると言われていました。しかしこれからの教育に必要な学びは、【自らの学び】つまり「遊び」が重要な鍵となるとし、幼稚園から大学での教育を全面的に見直し「学びの 3 原則」とした新しいカリキュラムが始まったのです。



3 原則の 1 つ目は「知識と技能」の基礎、2 つ目は「思考力・判断力・表現力」の基礎、3 つ目は「人間力（主体性・多様性・協働性）と深い対話力」の基礎、とされていて高等教育まで一貫し大学入試の判定基準とされることとなりました。そのため、幼児期からの学びは、「幼児自ら、主体的に遊びを通して、学び続ける」を基本としています。つまり遊びを楽しむ中で、考えたり、判断したり、表現したり、友達と伝え合ったり、みんなで役割を持って作りあげたりなどを共に学び合っていくことが大事とされています。従って、なるべく多様性のある自然との関わりが大切であるとしています。

しかし、時代の急速な変化でご家庭での遊びの玩具も IT 化が進み、スマホやタブレット、動画サイトや SNS などの活用により、子どももより深く興味を持つようになり、世界的にも浸透し始めています。でも、深い対話力が得にくいとされており、使い過ぎは禁物です。なるべく時間を区切るなどして向き合わせてください。

小学校では、来年からプログラミングの授業が各科目の中で導入されます。小学校でのプログラミング授業とは、算数であればタブレットで問題を作成し回答させていくような取り扱い方、理科であれば、検索で動植物などの生息地を調べ実際の様子を観察を観察したりするなど、プログラムの入力操作が導入されるといわれています。このプログラムを入力するためのアイディアは、多様な遊びの経験の中で育まれるといわれています。自然の中での自由な遊びを大切にしていきたいですね。